美　唄
Bibai

来たマガンにハクチョウ

国の天然記念物マガンの国内最北で最大の寄留地，宮島沼（美唄市，西美唄町）では，４月14日早朝，水鳥たちが待ちに待っていた沼の氷が解ける「沼明け」を迎え大挙飛来した。マガンが飛行ショーを繰り広げた。折りもよく土曜日とあって，市内外から訪れた大勢の行楽客を喜ばせていた。同沼の野鳥観察センターによると，沼明け時期としては桜前線初め春が異常に早かった本年にしては意外と遅く，平年並みとのことで，14日早朝，マガン２万羽と白鳥７千羽の飛来を観察した。日中はエサを求めて多くが沼から姿を消したものの，マガン・白鳥・ヒシクイ・キンクロ・ハジロなどの野鳥の姿を見ることができた。

見どころは夕暮れの１時間ほどの間，数百羽単位の波状編隊がねぐらとなる沼を目掛けて，四方八方から押しよせ，次々と着水。水面にマガンのじゅうたんを広げる有様は文字どおり圧巻といえる。ピークの４月下旬にはマガン６万５千羽をかぞえて，美唄市の人口３万１千人の２倍の数に達した。

日々変化する太陽と月と星の位置，季節を敏感に感じとった鳥たちが旅立ちの予感のなかで最後のエネルギーの補給にいそしむのは，旬日か或は２週間程度でもあろうか。そして太古からくり返されてきた大いなる旅，生きている地球を実感させる大いなるドラマ。北帰行。マガン４千キロの旅立ちの時がおとずれる。１羽が鋭い声とともに羽ばたくと，それに続いて次々と大空高く飛び立つ幾千幾万の鳥たち…。

静寂が戻った沼に，いつもの住人たちのさえずりがこだまする。水鳥たちの楽園，美唄宮島沼。この楽園を守るために私たちにできることは何だろう。季節ごとに感動を与えてくれる鳥たちのために，明日の地球のために。

追伸，マガンいつ北帰？沼明けは４月14日と平年並みであったが，北帰は例年ＧＷ後半が平年並みなるも，今年は暖気のせいか１週間程早い４月27日北帰行が初日で29日で殆ど終了したようです。

（雨田　実記）